

# 「解答例」

選抜区分	令和2（2020）年度（選抜区分：後期日程） 外国語学部中国学科（科目名：小論文）
問一（出題の意図）別紙	<p>問一</p> <p>「国語」から旅立つことを目指して、小説を書くことと決意してから十五年が経過した二〇一九年春、「わたし」は相変わらず日本語のなかに住んでいる。七歳の時に五十音を覚えてから、「わたし」の「国語」は Chinese ではなく Japanese になった。日本人のように日本語を読み、書く力を備える過程で、「わたし」の世界は広がっていったが、一方で、知らぬ間に自分を「日本人」という枠に縛りつけていた。そのことに気づいた「わたし」は、日本で育った台湾人としての自分のことは、中国語や台湾語が織り込まれた「ニホン語」という「杖」を取り戻すために、また自分自身を取り戻すためにも小説を書き始めた。今後「わたし」は、日本人のための日本語のみならず、自分のような移民をも視野に入れた新しい「国語」の創造を願いつつ、「ニホン語」による創作を宣言する。それが人々の感情をも解放し、幸せや勇気をもたらす、希望の原動力となることを信じている。（三九二字）</p>